

◎ 一倒壊、そして修復―

# よみがえった役行者えんのぎょうじや

町田 尚夫

奥武蔵の景勝地、黒山三滝奥の大平

山にある役行者の石像は、山伏の修行場があったとされる山中に幕末に造立され、周りにある数体の石仏と共に、越生町有形文化財に指定されている。地元には講中も結成されて厚い信仰を受け、また山登りの大先達として、ハイカーにも親しまれてきた。

ところが06年12月、役行者と前鬼まへおに・後鬼ごおにの石像が、何者かによって倒壊されるという事件が起こった。役行者は首を折られ、頭部が行方不明になった。亡失した頭部は、谷底に投げ落とされたか、持ち去られたのか、警察を初めとする懸命の捜索にもかかわらず発

見できなかった。

梅雨の合間に役行者を訪ねた。黒山三滝から傘杉峠道に入り、左折して大平山に向かう。

沢沿いから尾根筋に移って急登すれば、樹木に覆われ昼なお暗い標高500メートルの霊地に着く。人里から離れ、山伏の修行場にふさわしい、静謐の気に満ちていた。

倒伏した役行者は、起こして元に戻され、高下駄を履いた腰掛け姿で以前のように祭られていた。近寄って見ると、頭部が欠けて約1・6メートルあった像高は低くなり、頸部は折られた面が生



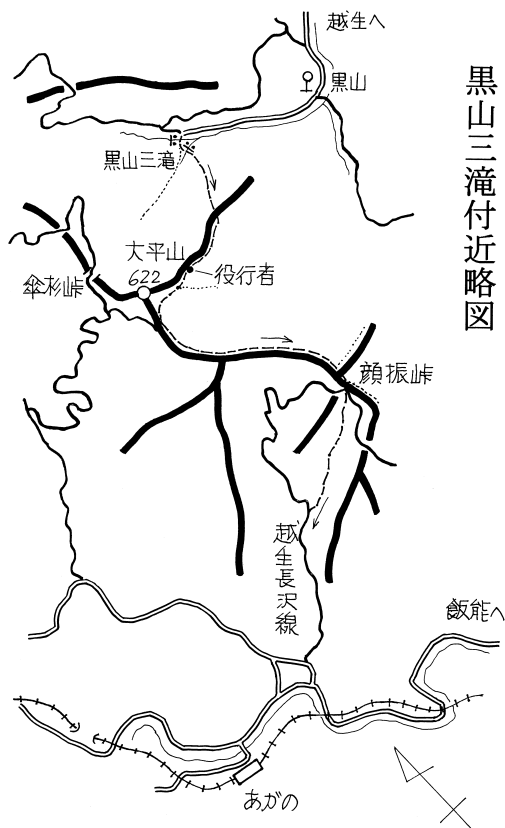
修復された役行者像

々しく露出している。護衛する前鬼・後鬼は少し擦り傷があるが無事、左右に控えている不動明王、弥勒・勢至菩薩は安泰のようだ。心ない者の悪質ないたずらに、胸がいたむ。

越生地方の修験は、室町時代の応永

5年（1398年）、山本坊栄田が箱根山から黒山に移って熊野神社を開き、越生山本坊と称して関東に於ける修験道の拠点としたのが始まりとされる。越生山本坊は、京都の聖護院を本寺とする本山派に属し、最盛期には150もの配下寺院を統治、その勢力圏は武蔵・常陸・越後3カ国13郡に及び、本山派27先達の一つに数えられた。し

## 黒山三滝付近略図



かし明治初年の修験道廃止により、25代5世紀にわたって繁栄した越生山本坊は、ついに幕を下ろした。大平山の修行場に、土地の有力者により役行者像が立てられたのは元治2年（1865年）とされる。数年後に修験道は終焉の時を迎えたが、爾来百数十年、信者により大切に護持されてきた。その役行者が災難を蒙り、地元

の受けた衝撃は大きかった。

損壊した役行者像は、新たに頭部を彫刻して修復することになり、地元では多額の浄財を募って準備を進めた。

彫像は、埼玉県在住で東京芸大出身の石の彫刻家S氏に委嘱、めでたく完成した。

そして、07年9月の縁日に、京都の聖護院門跡から40名にも及ぶ大勢の山伏を迎え、大平山の役行者前で「役行者修復開眼護摩法要」が盛大に執り行なわれた。

降りしきる雨の中、越生山本坊ゆかりの熊野神社前で、山伏や地元の人達が勢揃いして出発式を挙行、本日の護摩法要のために、京都からはるばる来山された本山修験宗管長・聖護院門跡五十二世門主に続き、越生町町長、同教育長のご挨拶があった。

いざ出発である。雨もまた修行のうちと、菅笠を被り、法衣の上に雨具をまとった跣足袋履きの40人の山伏が、一列になって整然と進む。その後に信

者達の列が続く。荘重な法螺貝の音が響きわたると、沿道の家々の人々が外に出て、手を合わせて行列を見送る。

初めに、かつての修験道場であった黒山三滝に向かう。昨夜からの雨で何倍にも増水し、轟音を響かせて落下する男滝・女滝の前で、山伏が般若心経を誦経して山に入る。

登山道は、信者達の奉仕で草を刈って歩きやすくなっていた。間もなく雨はあがり、空が明るくなった。急登しばしで、大平山山頂近くの聖地に着く。役行者前の平場には、縄で仕切った結界の真ん中に護摩炉が築かれていた。まずは修復された役行者を拝観する。首筋に傷跡が痛々しく残るが、年月が経てば消えるという。

よみがえった役行者前に全員が参列し、門主による修復開眼の式辞、山伏の誦経と続く。

次いで護摩の行事に移る。山伏と信者・参観者約100名が結界を囲み、司会役から解説を受けながら進行する。音色により意味が異なる法螺貝の実演、

修験道独特の結袈裟の話、偽山伏を見分ける模擬問答などが行なわれた。

次に護摩前の儀式である宝弓の作法、宝剣の作法、宝斧の作法、の三種の作法の説明と実演が行なわれた。何れも初めて目にする興味深い行事であった。

いよいよ護摩焚きが始まる。山伏達がひたすら誦経を続ける中、井桁に組み、檜の葉を被せた護摩木の下に、火のついた榑木を差し込む。やがて勢いよく煙が立ち上った。

門主を初めとする、山伏全員の誦経の声調が一段と高まる。地元講中役員の護摩奉納。結界の周りで静かに見守る信者や参観者。咳ひとつ聞こえない厳かな雰囲気の中、法要は肅々と進められた。炎が燃え盛ると、柄杓で水をかけて火勢を削ぐ。再びもうもうと煙が立ち上る。

やがて火勢は衰え、護摩法要は終わりを迎えた。役行者像の修復と、この日のために多大の尽力をした地元関係者や、京都から馳せ参じ、大がかりな採灯護摩を成し遂げた山伏達の顔に、

安堵と喜びの笑みがこぼれた。

行事をすべて終えて、山伏と信者達は来た道を整齐と帰っていった。後には再び静寂が戻った。一行と別れ、大平山の肩を越えて顔振峠に着くと、雨がすっかりあがった高曇りの西空に、武甲山から大持山にかけての山並みがくつきりと望まれた。

(07年6月24日、9月12日歩く)

### ●コースタイム

越生駅⇨30分⇨黒山⇨15分⇨黒山三滝⇨50分⇨役行者⇨50分⇨顔振峠⇨55分⇨吾野駅

### ●費用

池袋⇨越生 東武 700円

越生駅⇨黒山 バス 340円

吾野⇨池袋 西武 580円

### ●問い合わせ先

越生町役場 049-292-3121

川越観光バス 0493-56-2001

### ●地図

越生 正丸峠 (2万5千)

東京 (20万)